最近の道内経済動向

○道内景気は、新型肺炎による下押し圧力などから、全体としては減速している。
○先行きは、新型肺炎の影響が観光入込客数や個人消費を中心に下押し圧力になるとみられることから、弱含みでの推移が予想される。

（注）基調判断は、2020.2.21時点で入手可能な主要経済指標を参考とした（12～1月実績が中心）。

●個人消費は弱含みの兆しがみられる

12月の主要6業態別小売店の合計販売額（全店）は、前年比▲1.7%と3ヵ月連続で前年実績を下回った。駆け込み需要の反動減や暖冬の影響等により、百貨店や家電大型専門店などが減少し、全体を下押しした。また、足元では新型肺炎流行の影響を受けて、旅行キャンセルに伴うインバウンド消費の減少、各種イベントの自粛、外出抑制などが見受けられ、全体の下押し圧力となっている。

（注）主要6業態とは、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、及びホームセンターを指す。

●観光は弱含んでいる

1月の来道者数（国内交通機関経由）は、前年比0.4%増と5ヵ月連続で前年実績を上回った。一方、外国人入国者数（1月）は、同▲9.8%と4ヵ月連続で前年実績を下回った。なお、足元では新型肺炎の流行に伴い、中国人観光客をはじめ、観光入込客数は減少している。

（注）外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線（航空、ＪＲ、フェリー）利用による旅客数（国内客と道外で入国手続きした外国人客）を指す。

●設備投資は緩やかに増加している、公共工事は増加している、住宅建築は減少している

北海道財務局発表の法人企業景気予測調査（10-12月期）によると、19年度の設備投資計画（全産業、含むソフトウェア、除く土地）は、前年比16.0%増と前回調査から2.3ポイント上方修正された。製造業における能力増強投資や観光客受入態勢強化に向けた投資、市街地再開発などを背景に、企業の設備投資意欲は旺盛さを増している。公共工事請負金額（1月）は、前年比14.5%増（105億65百万円）と2ヵ月ぶりに前年実績を上回った。前年にみられた発注増加の持続（19年5～11月）に伴い、出来高ベースでは増加しているとみる。新設住宅着工戸数（12月）は、前年比▲6.0%と6ヵ月連続で減少。分譲住宅が2ヵ月連続で増加したものの、持家が2ヵ月ぶり、貸家が10ヵ月連続で減少し、全体を下押しした。

●生産は低下している

鉱工業生産（12月）は、前月比▲1.4%と2ヵ月ぶりに低下した。「金型」が増産となった一般機械が上昇したものの、「雑種紙」が減産となったパルプ・紙・紙加工品、「特殊鋼棒鋼」が減産となった鉄鋼が下押し要因となった。これらの減産は、いずれも中国経済の減速に伴う生産調整などが主因。

●輸出は減少している

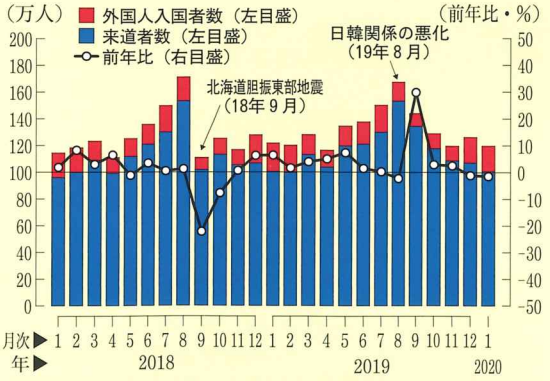
1月の通関輸出額（速報値）は、前年比▲25.7%（189億円）と6ヵ月連続で前年実績を下回った。品目別では、韓国向け「石油製品」などが前年実績を上回ったものの、欧州向け「有機化合物（クメン：自動車部品等の樹脂原料）」や、韓国向け「鉱物性タール・粗製薬品（キシレン：ペットボトルなどの原料）」などが前年実績を下回り、全体を押し下げた。

●雇用情勢は回復している

12月の有効求人倍率（パート含む常用）は、前年比0.06ポイント上昇の1.28倍となり、119ヵ月連続で前年実績を上回った。ただし、職種・地域間では、雇用のミスマッチが見受けられる。

来道者数と外国人入国者数の動向

観光入込客数について来道者数と外国人入国者数の合算の推移をみると、20年1月は前年比▲1.4%と前月（同▲1.1%）に続いて、2ヵ月連続で前年実績を下回った。内訳では、来道者数は前年を上回ったものの、韓国人客の減少などから外国人入国者数が減少し、全体を下押しした。先行きについては、新型肺炎の流行に伴い、来道者数・外国人入国者数ともに減少するとみられる（P1、3～7に関連記事を掲載）。



（注1）外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線（航空、ＪＲ、フェリー）利用による旅客数（国内客と道外で入国手続きした外国人客）を指す。
（注2）前年比は、来道者数と外国人入国者数の合算における伸び率。
（出所）北海道観光振興機構「来道者調査」、法務省「出入国管理統計」